

令和7年度 事業報告書



社会福祉法人
昭和村社会福祉協議会

目 次

1	昭和村社会福祉協議会の概要	1
2	社協と村との協働関係	4
3	法人運営部門	6
4	地域福祉部門	10
5	生活支援部門	19
6	成年後見部門	25
7	学童保育部門	27
8	福祉センター昭和の湯部門	31
9	シルバー人材センター部門	35
10	介護保険部門	37

1 昭和村社会福祉協議会の概要

はじめに ～社会福祉協議会とは？～

■ どんな仕事をしているの？

社協は・・・

1 福祉のむらづくり

各市区町村ごとに設置され、地域の人々が抱えている様々な福祉課題を地域全体の問題としてとらえ、皆で支えあい・学びあい「誰もが幸せに」暮らせる福祉の村づくりを進めます。



2 共に考え活動

地域のみなさん、ボランティアや福祉NPO、民生委員児童委員、保健・医療・教育などの関係機関、社会福祉施設や関係団体、行政機関などの参加協力を得ながら共に考え活動を進めます。

3 民間非営利の福祉団体

自主性と公共性という2つの側面を合わせもった民間非営利の社会福祉団体です。

4 地域福祉の中核機関

社会福祉法にも「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として規定され、地域福祉の中核機関として位置付けられています。

昭和村社会福祉協議会 基本理念 (平成25年4月1日制定)

昭和村社会福祉協議会では、使命である地域福祉を推進するために、全役職員が共通認識を持つとともに地域住民に社会福祉協議会に対する理解を深めていただくことを目的に基本理念を制定しています。

私たちは、地域福祉を推進するために、地域の皆さんや関係機関と協力しあい、「誰もが幸せに」暮らせる福祉の村づくりを目指します

社協の組織

令和7年度の本会の会員及び組織の概要は、次のとおりです。

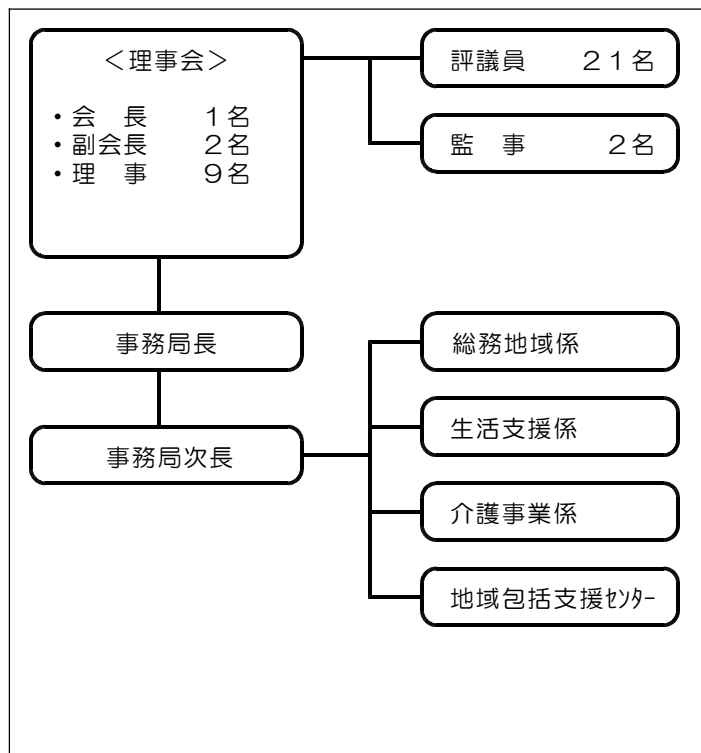
(令和7年度末現在)

1 会員の状況

本会を支えてくださっている会員及び会費は、次のとおりです。

項目	会費	会員数	納入額
一般会費	1,000円	1,803世帯	1,803,000円
特別会費	5,000円	13口	181,000円
	4,000円	29口	
賛助会費	5,000円	1口	49,000円
	4,000円	11口	
合計			2,033,000円

2 組織等



※理事10～12名
※評議員20～25名

3 事務局

職 種	形 態	職 員 数
事務局長	村派遣職員	1人
事務局次長	正規職員	1人
総務地域係 (学童クラブ)	正規職員	3人
	嘱託職員	3人
	臨時雇用職員	8人
	非常勤雇用職員	11人
生活支援係	正規職員	2人
介護事業係	正規職員	3人
	嘱託職員	1人
	臨時雇用職員	5人
	非常勤雇用職員	4人
地域包括支援センター	正規職員	2人
	村派遣職員	1人
計		45人



村派遣職員	2人
正規職員	11人
嘱託職員	4人
臨時雇用職員	13人
非常勤雇用職員	15人

令和7年度基本方針

超高齢化社会の進行や価値観の多様化、長引くコロナ禍での生活環境の変化を背景に、8050問題や虐待・貧困など複合的な課題の顕在化に加え、物価高騰による生活困窮など私達の生活状況は深刻化しております。

また、近年の全国各地における異常気象等による自然災害により改めて人命や財産を守るためのシステム作りや被災後生活の早期再建に向けた取り組みの重要性と日頃からの地域住民の繋がりの大切さが再確認されております。

このような社会情勢の中で、地域福祉推進の中核機関である社会福祉協議会に求められる役割も平時の地域福祉力の向上や福祉サービスの提供に合わせ、災害時の支援活動など多岐にわたり、その時々ニーズや地域社会の実態に合わせた事業展開が必要となります。

令和7年度は第2次昭和村地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念である「笑い声のひびくやさしい村」と世代や分野を超えて繋がり、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指し、行政や関係機関との連携を図った福祉活動を積極的に展開しました。

加えて、中長期にわたり「ガバナンスの強化」「財務の改善」「労働環境と意識の改革」「透明性の向上」に積極的に取り組み社会福祉協議会の使命を果たせる組織づくりにも努めました。

2 社協と村との協働関係

村からの受託事業 16事業 2,452万円

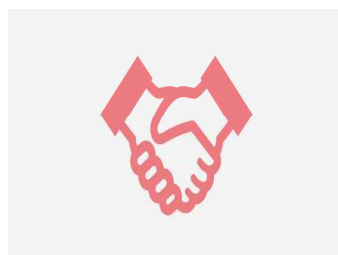
本会では、次の事業を昭和村から委託を受けて行いました。

事業名	受託額	付記
■生活支援体制整備事業	4,000,000円	人件費・協議体運営費
■食の生活自立支援事業	1,892,800円	2,366食
■家族介護教室・交流事業	150,000円	2回
■介護用品支給事業	734,052円	13人
■一人暮らし高齢者交流事業	297,500円	交流50人・温泉保養20人
■移動支援業務事業	35,500円	14回
■地域支援ケア輸送サービス助成事業	109,760円	49回
■要介護認定調査事業	227,500円	65人
■地域包括支援センター事業	15,622,096円	人件費・管理運営費
■地域ケア会議推進事業・一般介護予防事業（全6事業）	457,936円	認知症支援・介護予防事業など
■権利擁護センター事業	1,000,000円	人件費・管理運営費
計	24,527,144円	

社協と村とで築く福祉の村



昭和村社会福祉協議会



昭和村

村からの補助事業

3事業

1,253万円

村からの補助を受けて、次の事業を行いました。

事業名	補助額	付記
■社会福祉協議会運営	11,800,000円	①法人運営 ②地域福祉活動推進事業 ③災害支援活動など
■シルバー人材センター事業	700,000円	
■認知症高齢者等福祉サービス利用支援事業	38,875円	250円×155.5時間
計	12,538,875円	

村からの指定管理事業

4事業

約1億5,053万円

村から指定管理者の指定を受けて、次の4施設の運営を行いました。

指定期間 令和6年4月1日～令和9年3月31日

事業名	収入額	主な収入内訳
■「昭和の湯」運営事業	61,831,387円	①村指定管理料 32,362,000円 ②入館料収入等 29,469,387円
■通所介護施設「昭和の里」運営事業	41,040,408円	①介護事業収入等
■昭和村学童クラブ運営事業 (南・東・大河原)	47,668,200円	①村指定管理料 33,323,600円 ②保育料収入等 14,344,600円
■昭和村ふれあい館運営事業	0円	
計	150,539,995円	

3 法人運営部門

基本目標

「地域に親しまれる団体として適正で開かれた法人の運営を組織的に
行います」

決算額

1,765万円

(1) 適正な法人運営とガバナンスの強化

①理事会・評議員会・監事会の開催

■理事会

理事会では法令及び定款の定めるところにより業務執行の決定を行いました。

[開催状況] 6/3 6/24 12/10 1/25(書面) 3/4 3/24(書面)
計6回



■評議員会

評議員会では、理事の選任や予算及び事業計画など法人の重要事項について
決議しました。

[開催状況] 6/23 1/19 3/23 計3回



■監事会

監事会では、理事の業務執行状況や法人の財産状況について監査しました。

[開催状況] 5/28 12/4 計2回

②正副会長会議・委員会・職員間の調整会議等の開催

■正副会長会議

正副会長会議は、正副会長及び管理職員が出席し、法人運営のための連絡調整や部門（事業区分）ごとの経営状況の把握と事業活動、経営戦略等について協議検討等を行いました。また、副会長2名を経理規程に基づく内部監査人に選任し年3回同会議で内部監査を実施しました。

[開催状況] 12回



■ ボランティアセンター運営委員会

ボランティアセンター及び善意銀行の運営に関する事項の審議を行いました。

[開催状況] 8/28 3/26 計2回

■ シルバー人材センター運営委員会

シルバー人材センターの運営に関する事項の審議を行いました。

[開催状況] 11/27

■ 係等代表者会議

職員への伝達事項、係間の業務連絡調整や情報共有を図るために係等代表者会議を開催しました。

[開催状況] 12回

③ 適正な人事・労務管理

労働関係法令を遵守した職員の労務管理に努めるとともに働き方改革を実行し超過勤務の抑制と年次有給休暇の取得を促進し、限られた職員の中でも充実したサービス提供に努めました。

（２）財務の改善と効果的な事業展開

① 適正な財務管理の推進

財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務及び会計顧問業務を継続して税理士等に委託し、適正な財務管理を推進しました。また、日常的な経理事務及び出納業務を管理するために経理規程に従い会計責任者と出納責任者を配置し会計職員を指導監督しました。

② 収入予算の確保と経費削減の徹底

昭和の湯収支差額を補填するための指定管理料の増額や学童クラブ一人親家庭等保育料減免部分の補填など村健康福祉課と協議をし公費財源の増額に努めました。また、料金の高止まりが続く原油や電気の使用量の抑制に努めるなど経費削減を徹底しながらもサービスの低下とにならないよう必要な事業経費を確保しました。

③ 高い経営意識による経営改善への取り組み

正副会長会議において主要事業の目標値を定めるとともに毎月の実績を確認するなど経営意識の高揚に努めました。また、使いやすい決算書や簡易決算書を作成し法人全体と事業別の経営実績を明確にしました。

(3) 職員意識の改革と労働環境の整備

①職員面談及び人事評価の実施

職員の人事評価実施規程に基づき、全正規職員が年間の業績目標を立て、評価者と面談を行い、評価期間中に果たすべき役割等について確認をしました。また、全職員を対象に自主点検を実施し、服務姿勢についての確認と必要な改善を促しました

(4) 透明性・公平性を高めるための積極的な情報公開

①広報紙及びホームページの充実

②SNSを活用した情報公開の促進

③活動の「見える化」と情報を届ける「見せる化」の推進

法人ホームページを有効活用し、会議や行事内容等を掲載するなど広く情報の発信に努めるとともに社協だよりを3回発行して村内全戸に配布をしました。また、SNS（Facebook）を活用し情報公開の促進に努めました。

■ホームページ活動掲載件数 112件（前年度110件）



■ 6月15日（第101号）

■ 10月15日（第102号）

■ 2月15日（第103号）



(5) 災害時における事業の継続と支援活動の強化

■事業継続計画及び災害等緊急時の行動マニュアルに基づき、係等代表者会議において「事業継続のための日常管理と環境整備」の確認をするとともに9月29日に台風による被害を想定し、正規職員を対象に緊急参集及び復旧のための

被害状況把握訓練を実施しました。

- 利根沼田管内市町村社協等で共催する沼田市災害ボランティアセンター設置及び運営訓練（利根沼田地区資機材プラットフォームにおける資機材運搬訓練並行）に参加し、災害ボランティアセンターの機能や役割等について体験し学びました。

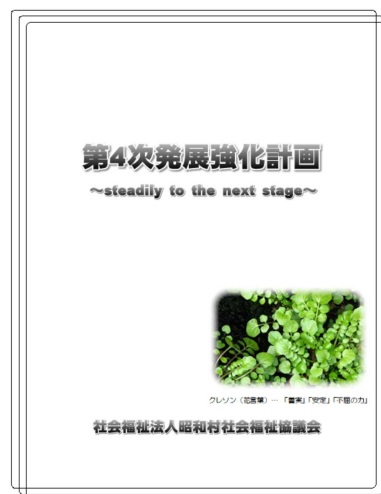
3月8日 12名参加



（6）その他法人運営上必要となる活動

① 第4次発展強化計画の策定

社会福祉協議会の使命が果たせる組織をつくるために現状の課題を役員間で共有をし、積極的にその改善を図ることにより地域住民や行政、関係機関等の期待に応えられるよう第3次発展強化計画を踏襲し、着実に次のステージへ進むための経営・運営方針を定めました。



4 地域福祉部門

基本目標

「地域住民主体による地域福祉を推進するために、地域の皆さんの参加・協力による助け合い、支え合いの福祉活動を展開します」

決算額

1,007万円

(1) 地域の皆さんと協働した地域活動の推進

- ①地域住民参画による地域福祉活動の推進・検証・改善
実績無し
- ②各種団体等の活動支援及び助成

団 体 名	主 な 活 動
1 昭和村老人クラブ連合会	スポーツ大会(村)、輪投げ大会(村)、ゲートボール大会(村)、役員研修会、など
2 昭和村母子会	活動休止中
3 昭和村身体障害者の会	活動休止中
4 昭和村手をつなぐ親の会	奉仕作業、交流事業、など
5 昭和村更生保護女性会	社会を明るくする運動、薬物乱用防止活動、など
6 昭和村遺族の会	護国神社例大祭参列、靖国神社参拝(2年に1回)、など



③小地域福祉活動支援の充実（ふれあい・いきいきサロンの推進）

小地域を対象にひとり暮らし高齢者や家に閉じこもりがちな方々が、仲間づくりや生きがいがづくりに気軽に出かけられるサロン活動を推進するとともに、必要な活動費の助成をしました。また、今後のふれあい・いきいきサロン等小地域福祉活動や見守り支援事業について協議検討しました。

■ふれあい・いきいきサロン数 28箇所（前年度28箇所）

■きずなサポーター人数 148名（前年度155名）

■きずなサポーター会議 6回（前年度6回）



④ホームページを活用した情報の発信

法人ホームページを積極的に活用し地域福祉活動について広く情報を発信するよう努めました。

（２）地域力の向上と、住民意識を高めるための計画的な事業展開

①ボランティアの育成及び活動推進（ボランティアセンターの運営）

地域で生活している人々が中心となり、各種の地域福祉活動や主体的な参加を通し、ボランティアを身近に感じることで、住民の福祉意識向上に努め、福祉ニーズの向上が図られるよう地域支援体制の整備と協働の輪を広げていくことを目的にボランティアセンターを運営しました。

■ボランティア協議会の活動支援

昭和村ボランティア協議会に助成をするとともに事務局として活動を支援しました。

[主な活動] 配食サービス、環境整備など



■ボランティア活動保険の加入助成

地域のボランティア活動の活性化を図るとともにボランティア活動中の事故等を補償するためにボランティア活動保険の加入を促進し保険料の一部を助成しました。

[助成者数]199名（前年度195名）

■個人ボランティアの登録及び派遣

地域のボランティア活動を希望される個人等を把握・登録し、ボランティアを必要とする施設や地域の福祉活動を紹介しました。

[登録者数] 個人ボラ12名・災害ボラ17名・団体13組

(前年度個人ボラ12名・災害ボラ17名・団体13組)

■ボランティアセンターだよりの発行

実績なし

■傾聴ボランティア「よりそい」の活動支援

会議の開催 2回 地域視察 1回

■ボランティアスクールの開催

実績なし

■小中学校福祉作文・ポスターコンクールの実施

明日を担う児童・生徒が日常生活の中で福祉について考え、気付きを通して「優しさや豊かな心を育むこと」を目的に小中学校福祉作文・ポスターコンクールを実施しました。

[応募作品] ポスターの部 4点(前年度6点)

作文の部 8点(前年度5点)



■福祉教育の充実

村内小学校児童が学業を通じて互いに福祉について考え学び、理解を深めることを目的に福祉教育の充実を図りました。

[延べ回数] 大河原小学校 3回

南小学校 3回

東小学校 3回

昭和中学校 1回

(地域包括支援センターと協働による認知症サポーター養成講座)



■エコキャップの収集活動

ペットボトルのキャップを集めることにより、発展途上国の子ども達にワクチンを届けるボランティア活動を通じ、地球の環境保全と世界の子ども達の命を守ろうというエコキャップ推進運動に取り組みました。

[3月末現在] 累計6,414kg 2,758,020個
ワクチン1,283.8人分



■善意銀行（寄付金品） 計20件 1,879,068円

「福祉に役立てて欲しい」と個人・団体から寄付金品をいただきました。

金子 輝 様	1,500円
ますみ会 様	10,000円
昭和村そば生産組合 様	10,000円
株式会社 新鮮便 様	20,000円
味の素ファインテクノ株式会社 様	128,000円
ZACROS株式会社 様	80,000円
昭和村ボランティア協議会 様	235,319円
（福祉バザー）	
昭和村商工会 様	12,749円
ちびっこ商店街（グルトリッパパヅル） 様	5,029円
ちびっ子商店街（SHOWA&南SDGs） 様	3,966円
赤城林間学園 様	21,500円
昭和村ゴルフクラブ連合会 様	150,000円
オパールのかき氷屋 様	5,000円
生方三雄 様	100,000円
匿名希望 様	1,000,000円
匿名希望 様	5,000円
二七会 会員一同 様	37,407円
匿名希望 様	2,000円
匿名希望 様	5,530円
昭和の湯募金箱	46,068円

[主な使い道]

ふれあい・いきいきサロン助成金	250,000円
障がい者職業訓練事業	171,560円

*主な事業のみを記載していることから合計額とは一致しません。

②住民意識の向上に繋がる講演・イベントの開催

■福祉セミナー…開催なし

(3) 地域福祉活動計画に基づく地域福祉の推進

- ①第2次地域福祉活動計画に基づく地域福祉推進の実践的活動計画の基本理念に基づき、地域福祉の推進に努めました。

(4) その他地域福祉を推進するための活動

①社会福祉法人連絡会の開催

昭和村内の社会福祉法人が相互に情報交換を行い、地域の課題やニーズを把握し、連携と協働を図ること等を目的に社会福祉法人連絡会を開催しました。

[実施回数] 1回(前年度 実績無し)

②地域福祉活動の実践方法についての検討

実績無し

③地域包括ケアシステムの取組(重層的支援体制整備事業についての村との協議)

会議や研修会への参加により関係機関との連携を強化するとともに理解を深めるよう努めました。

[参加実績] 5回(前年度 実績無し)

7/31 包括的な支援体制整備推進に係る研修会

9/8 包括的支援体制整備研修会

9/9 重層的支援体制整備事業研修会

1/15 包括的な支援体制整備に係る情報交換会

1/30 小規模市町村等における包括的な支援体制整備のための新たな仕組み等に関する説明会

④その他地域福祉を推進するための活動

■共同募金会事業

共同募金会昭和村委員会の事務局として、赤い羽根募金、歳末たすけあい募金運動を実施しました。集められた募金は、県内の各福祉施設や福祉団体に配分されます。なお、本会では次のような事業を行っています。



[募金実績]

赤い羽根募金		歳末たすけあい募金	
1,033,006円		1,598,285円	
募 金 内 容	①戸別募金 892,000円	募 金 内 容	①戸別募金 894,000円
	②学校募金 15,870円		②法人募金 616,350円
	③イベント募金 33,468円		③職域募金 58,877円
	④職域募金 86,206円		④個人募金 7,567円
	⑤その他の募金 5,462円		⑤その他の募金 21,491円

[配分事業実績]

赤い羽根募金		歳末たすけあい募金	
862,082円		1,613,459円	
主 な 事 業	①オムツ給付 159,500円	主 な 事 業	①出産祝品 435,000円
	②福祉作文ポスターコンクール 64,900円		②年始特別配食 80,000円
	③敬老慰問 192,000円		③オムツ給付 159,500円
	④配食サービス 242,000円		④障がい者施設助成 300,000円
	⑤福祉まつり 47,568円		⑤子育て支援施設助成 100,000円

*主な事業のみ記載していることから合計額とは一致しません。

■敬老会及び福祉大会

感染症対策を講じ、慶祝者及び表彰者のみを招待し開催しました。

表彰状（感謝状）の贈呈 6名（前年度8名）

敬老会 ダイヤモンド婚 20組（前年度8組）

金婚 17組（前年度20組）

傘寿 62名（前年度61名）

■敬老慰問

95歳以上の在宅高齢者を昭和村と共に慰問しました。

3,000円分相当の「昭和村商工会商品券」を贈呈。

[対象者数]64名(前年度60名)

■高齢者ふれあい交流会

村内のひとり暮らし高齢者等を対象に、心身のリフレッシュや交流を図りました。

[交流事業] 2回 延べ50名(前年度2回 53名)

[温泉保養(日帰り)] 1回 20名(前年度1回 21名)



■障がい者施設への助成

村内の障がい者施設事業への助成を行いました。

たけのこ学園

くりのみ学園

星夜の森学舎 各10万円(前年度同額)

■障がい者職業訓練協力事業

本会業務の一部を、村内の障がい者施設へ委託をしました。

[実施回数] 15回(前年度15回)

[延べ訓練者数] 45名(前年度45名)

■ひとり親家庭支援事業

ひとり親家庭の学童クラブ保育料の減免を行いました。

[延べ児童数] 236名(前年度268名)

[減免額] 444,600円(前年度489,800円)



■子育て支援施設への助成

村内の子育て支援施設事業への助成を行いました。

子育て保育園 10万円(前年度同額)

■相談援助実習の受け入れ

1名 高崎健康福祉大学(前年度 実績無し)

■福祉協力校への助成

南小学校 64,000円

東小学校 43,000円

大河原小学校 23,000円(各前年度同額)

■高齢者疑似体験装具の貸し出し

実績無し(前年度 実績無し)

■法外援護費支給事業

実績無し（前年度 実績無し）

■火災見舞品贈呈事業

1件（前年度 実績無し）

■自動販売機の設置運営事業

昭和村公の施設利用者の便宜と福祉財源確保のために、自動販売機を設置し運営しました。

[賃貸料収入] 792,189円
(前年度789,748円)

[設置場所]

ふれあいグリーンパーク・多目的屋内運動場・中野観光トイレ・赤城原観光トイレ・ふれあい館

■福祉まつり

[開催期日]10/5 昭和の秋まつりと同日開催

[主な催し]福祉なんでも相談会

福祉作文ポスターコンクール表彰式

災害用資機材展示

ボランティア協議会福祉バザー

更生保護女性会啓発活動

民生委員児童委員協議会共同募金活動



■安心お守りカード設置事業

ひとり暮らし高齢者等が自宅で具合が悪くなり救急車を呼ぶときや離れて暮らす家族に連絡をとるときなどに備えておく安心・便利な安心お守りカードを設置しました。

[3月末現在登録者数] 143名（前年度147名）

■出産祝金品贈呈事業

未来を担う子どもの誕生を祝うために出産祝品を贈呈しました。

[件数]29件（前年度30件）

■沼田市認知症にやさしい地域づくりネットワーク

村や協力事業所と連携をし、認知症高齢者の方とその家族が地域で安心して暮らせるよう、日常の見守りと緊急時のネットワークを推進しました。

[登録事業者数]21件 所在不明情報発信数 9件

■昭和村安心お守り隊の推進

「健康づくり」「挨拶運動」「動物愛護」「見守り活動」をまとめてやっちゃお

うというとっても欲張りで一石二鳥？三鳥？四鳥？な地域のボランティアパトロール活動を推進しました。

[登録者数]個人153名 施設（団体）7箇所



5 生活支援部門

基本目標

「高齢者の要介護状態等を予防し、社会参加をしながら地域において自立した日常生活が営めるよう支援します」

決算額

3,607万円

(1) 地域包括支援センターの受託運営

① 高齢者に対する総合相談支援の充実と権利擁護の推進

高齢者に関する様々な相談を受け付け、適切な機関・制度・サービスにつなぐなど継続的な支援を行いました。

延べ相談件数 656件（うち権利擁護に関する相談9件）

（前年度 794件（うち権利擁護に関する相談19件）

② 関係機関等との連携による実態把握の強化

村が行う高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について、関係者による打ち合わせに参加し、協力体制や情報共有を図りました。

③ 適正な包括的・継続的ケアマネジメント支援

関係機関との情報共有・連携強化、個別ケアマネジメントに対するサポートを行うことで、本人や家族が必要なときに必要な社会資源を途切れることなく活用できるよう調整しました。

包括的・継続的ケアマネジメント支援件数 47件（前年度96件）

④ 質の高い介護予防ケアマネジメント業務及び指定介護予防支援

心身・生活状況、その他の環境、本人・家族の要望などに基づき、対象者の自立支援を意識した介護予防サービス・支援計画を提案し、地域で充実した生活を送れるよう支援しました。また、対象者の利便性を考慮した上で、必要に応じて他の居宅介護支援事業所に業務を委託しました。

【包括】延べ利用者数 889名 1ヵ月平均 74.1名

（前年度 延べ利用者数 759名 1ヵ月平均 63.2名）

【委託】延べ利用者数 254名 1ヵ月平均 21.2名

（前年度 延べ利用者数 272名 1ヵ月平均 22.6名）



⑤関係機関との連携による認知症総合支援業務と在宅医療・介護連携推進業務への取り組み

日常的な連絡調整、会議や研修会への参加により関係機関との連携を強化するとともに理解を深め事業の推進に努めました。また、様々な対象者に向け認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に関する正しい知識の普及啓発に努めました。

■認知症サポーター養成講座の開催

1/23 支えあい地域づくりセミナー参加者 23名

2/27 昭和中学校1年生 49名



■認知症サポーターキャラバン・メイト養成研修

6/25 1名修了

■認知症地域支援推進員研修 新任者研修

8/19 8/20 1名修了

■群馬県認知症疾患医療センター内田病院 連携協議会

7/23 3/18 各1名出席

■認知症初期集中支援チーム検討委員会

7/23 3/18 各1名出席

■「ぬまとね医療・介護連携相談窓口」実務者会議

5/21 1名出席 7/16 1名出席 9/17 書面会議

1/28 1名出席

■「ぬまとね医療・介護連携相談室」運営会議

8/27 3/17 各1名出席

■利根沼田圏域在宅医療・介護連携運営推進協議会

9/2 2/5 各1名出席

■「ぬまとね医療・介護連携相談室」主催の研修会

6/5 6/26 7/17 8/28 10/30 12/24 各1名参加

⑥チームオレンジの推進

傾聴ボランティア「よりそい」と協力し、認知症カフェ・チームオレンジの立ち上げについて協議を重ね、「C a f eよりそい」をオープンしました。

■打ち合わせ会議 4/30 6/17 7/31

■C a f eよりそい (8/21オープン)

第2・第4木曜日 14時～16時開催

延べ開催日数 15日 延べ参加者数 216名

⑦各種地域ケア会議の開催

村内介護保険事業所との課題や情報の共有等を目的とした地域ケア会議を開催し、地域包括ケアシステムの構築に向けた施策の推進に努めました。

■地域ケア推進会議 9/11 出席者 19名
2/16 出席者 22名

■自立支援型地域ケア個別会議 9/11 出席者 27名
2/16 出席者 26名



⑧地域における一般介護予防の充実推進

介護予防に関する知識を普及・啓発することにより、高齢者が要介護状態となることをできる限り予防し、自立した日常生活を営むことができるよう支援しました。

■らくらく筋トレ大会の開催
12/2 参加者 16名

■音楽療法会の開催
11/10 11/11 11/12 11/13
延べ参加者 115名

■きずなサポーター会議の開催
4/25 6/27 8/29 10/31 12/13 2/27
延べ参加者 168名

■健康麻雀（11/13オープン）
第1・第3・第5木曜日 13時30分～16時30分開催
延べ開催日数 10日 延べ参加者数 172名



■理学療法士のサロン訪問
訪問サロン 15カ所 延べ参加者 88名

⑨その他の実施事業

村からの委託を受け要介護認定調査を実施しました。

調査件数 40件（31件）



(2) 生活支援体制整備事業の受託運営

①生活支援コーディネーターの配置

市町村が取り組みをする包括的支援事業のうち生活支援体制整備事業を村から受託し、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行う生活支援コーディネーターを配置しました。

○生活支援コーディネーター配置 1名

②協議体の設置と定期的な会議の開催

助け合い活動・通いの場など地域の様々な活動の充実推進を図るため協議体を構成し定期的に会議を開催し、また、構成員による地域の見守り活動も行いました。

[開催状況] 5/16 7/16 9/18 11/17
1/22 3/25 計6回



③新たな生活支援サービスの創出

協議体会議を定期的で開催し、各構成員の様々な立場から情報や意見をいただきながら、地域活動の充実推進を図るための協議を進め、令和6年8月から運行を開始した「昭和村お買い物号」を継続して運行しました。

[運行状況] 4/25 5/16 6/27 7/18 8/22
9/26 10/24 11/28 12/19 1/23 2/20 3/27 計12回

[登録者] 5名(令和8年3月現在)



④各関係機関との情報共有

利根沼田ブロック生活支援コーディネーター情報交換会に定期的に参加をし他市町村との情報交換を行いました。また、地域ケア推進会議に協議体正副会長及び生活支援コーディネーターで参加をし関係機関と連携を図るとともに必要に応じて協議体の取り組み等について情報提供をしました。

(3) 生活支援事業の充実

①低所得世帯への生活指導・資金援助及び日常生活自立支援事業の受託運営

■生活福祉資金貸付事業

[相談件数] 2件(前年度3件)

[貸付件数] 2件(前年度1件)

[3月末現在利用者数] 3名(前年度1名)

■小口生活資金貸付事業

一時的な生活費・医療費等の生活資金の支出困難な世帯に対して必要な小口資金の貸付を行いました。

[貸付件数] 延べ27件（前年度27件）

■生活困窮者自立相談支援事業

[3月末現在利用者数] 2名

[支援調整会議] 12回

[生活困窮者生活・就労相談会] 参加者1名（前年度3名）

■日常生活自立支援事業

判断能力が低下している高齢者等の自立支援のため、基幹社会福祉協議会として日常生活における金銭の預かりサービスなどを行いました。

[3月末現在利用者数] 13名（前年度12名）

②家族介護者に対する支援事業

■介護用品支給事業

村内に居住する概ね65歳以上で要介護4・5の方、認知症高齢者・重度身体障がい者等で寝たきり状態、失禁状態にある方、また療育手帳Aを持っていて失禁状態にある方に年間7万5千円を限度にオムツを給付しました。

実利用者数 13人（前年度19人）

事業費 534,052円（前年度647,181円）

■オムツ給付事業

村内に居住する概ね65歳以上の高齢者及び障がい者(児)で常時オムツを使用している方に年2回（6月・12月）オムツを給付しました。

延べ利用者数 118人（前年度112人）



■福祉用具・福祉車両の貸し出し

要介護者や障がい者の方の自立生活の助長と本人並びに介護者の負担軽減を図るために、車椅子やベッド、車いす等のまま乗り降りできる福祉車両等を貸し出しました。

【福祉用具】延べ利用者数 26人（前年度25人）

【福祉車両】延べ利用者数 70人（前年度63人）

■家族介護者教室・交流事業

在宅で介護をされているの方の心身のリフレッシュと介護者相互の交流を目的に介護者の集いを行いました。

9/26 3/6 延べ参加者 9人（前年度 8人）



③フードバンクの実施

家庭等で余っている未利用食品を寄付していただき、食べ物を必要とする人のもとへ届けるフードバンクを実施しました。個人・団体等からお米、乾麺、缶詰などの寄付をいただき、必要とする方のもとへ届けました。

延べ配布件数 57件（前年度101件）

④その他在宅生活を支援するためのサービス提供

■食の生活自立支援事業

村内に居住する概ね65歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯を対象に原則週2回お弁当を配達し栄養面の管理と併せ安否確認しました。

利用料 1食200円

延べ配食数 2,366食（前年度2,231食）



■ケア輸送サービス

一般の公共交通機関を単独では利用困難な方々を対象に、介護職員が事業用自動車により安心安全な移動サービスを行いました。

利用料 30分 2,490円（村からの助成対象者は、250円）

延べ輸送回数 57回（前年度50回）

■暮らしサポート応援事業

介護保険サービスや地域在宅福祉サービス利用者を対象に訪問介護事業の該当とならない家事や介護、その他のサービスを提供しました。

利用料 30分まで 800円

60分まで 1,500円

延べ利用回数 29回25.5時間（前年度25回24.5時間）

■デマンドバスの予約代行

村のデマンドバスの予約が困難な高齢者等の代理で予約を行いました。

延べ利用者数 1名（前年度13名）

6 成年後見部門

基本目標

「認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力が不十分な方々が安心して生活できるよう適切な成年後見制度の相談支援等を行います」

決算額

11万円

(1) 権利擁護センター（中核機関）の受託運営

①行政及び関係機関との連携

成年後見制度利用促進事業圏域別情報交換会に行政職員と出席し、利根沼田管内各市町村の取り組みについて情報交換をし連携を深めました。

②成年後見制度の普及啓発

成年後見制度の普及啓発を目的に地域包括支援センターで開催したセミナーに権利擁護センター職員が出席し成年後見制度の説明を行いました。

■ささえあい地域づくりセミナー 1 / 23 権利擁護ってなに？

参加者23名



③成年後見の適切な相談支援及び関係機関への繋ぎ

成年後見制度に関する相談を受け付け、問題解決のお手伝いをしました。また、エンディングノートを事務所に備え作成等の支援が行える環境を整えました。

[相談件数] 4件 日常生活自立支援事業の事業説明・情報提供 2件

日常生活自立支援事業への繋ぎ 2件

成年後見制度の制度説明・情報提供 2件

④成年後見制度利用促進・連携協議会の開催

行政機関や専門職、関係機関等との連絡や情報交換を行い、相談の問題解決の連携体制を構築するために成年後見制度利用促進・連携協議会（協議会）を開催しました。

[開催状況] 6/19 2/18 計2回



(2) 法人後見事業の実施

本会が、法人として成年後見制度における成年後見人等になり判断能力が不十分な方のサポートを行いました。また、原則として月1回、成年被後見人等の居所を訪問し、安否の確認を行うとともに、心身の状態及び生活の状況の把握に努めました。

受任件数 成年後見2件（精神障害・認知症）

預貯金等の管理・解約 延べ32回（内22件入院費用支払い）

年金手続き 延べ 1回

行政手続き 延べ 6回

他の手続き 延べ12回

GH体験支援 延べ 7回

①法人後見専門員の選任及び資質向上への取り組み

法人後見専門員を2名常勤兼務で選任し法人後見事業実施に必要な体制を整えました。

■令和7年度法人後見実施社協情報交換会	5/29	2名
■令和7年度行政職員等研修	9/24	2名
■みなかみ町成年後見サポートセンター講演会	11/7	2名
■身寄りのない人の支援	12/2	1名
■令和7年度法人後見専門員養成研修会	12/5・8	3名
■令和7年度利根沼田自立支援協議会特別研修会	1/29	2名

②法人後見運営委員会の開催

受任の適否の判断や後見業務の指導を行う法人後見運営委員会を開催しました。

[開催状況] 10/22 計1回

③被後見人の心身の状態・生活状況の把握

1ヶ月に一回の頻度で面会、その他電話にて心身の状態及び生活の状況の把握に努めました。

④被後見人への適切な相談支援及び関係機関との連携・繋ぎ

病院及び入所施設の相談員等と連携し被後見人の心身の状態及び生活の状況の把握に努め、被後見人にとって最もよい方法を検討し支援しました。

7 学童保育部門

基本目標

「児童や家庭に対し分け隔てなく保育を行い、豊かな愛情を持って
接し児童の健全育成に努めます」

決算額

3,592万円

学童クラブの運営

本会では、昭和村から昭和村学童クラブの指定管理者の指定を受け、放課後の留守家庭児童を対象に健康管理、健全な遊びの指導等を行っています。

- ①東学童クラブ
- ②南学童クラブ
- ③大河原学童クラブの3施設の運営を行っています。



■保育料：日額1,000円

通年利用は月額10,000円が上限

■ひとり親家庭、兄弟姉妹同時利用や生活保護受給世帯は減免・減額があります。

■学校休校日及び夏休み等の長期休校日の受入も行っています。

(8月13日～15日及び12月29日～翌年1月3日はお休み)

■職員体制

クラブ名	主務支援員	補助支援員	登録支援員
東学童クラブ	1人	2人	2人
南学童クラブ	1人	5人	7人
大河原学童クラブ	1人	1人	2人
計	3人	8人	11人

※南学童は2単位

■実績

クラブ名	延べ児童数	1日平均児童数
東学童クラブ	8,211人(前年度 6,612人)	28.6人
南学童クラブ	12,893人(前年度 11,508人)	46.7人
大河原学童クラブ	4,262人(前年度 3,523人)	14.9人
計	25,366人(前年度 21,643人)	

(1) 児童が安全に快適に過ごせる環境整備と体制づくり

① 児童と支援員の信頼関係の構築と学童間の連絡・連携強化

日々の保育において児童との信頼関係の構築に努めるとともに、支援員会議及び主務者会議において保育方法等についての情報共有や協議検討を行いました。また日々の各学童クラブにおけるミーティングで児童の様子を共有し、支援方法やコミュニケーション方法について確認をしました。

② 保護者及び関係機関との連絡・連携強化

日々の送迎時やべりりノートを通して保護者との連絡強化を図るとともに緊急時一括送信メールシステムも適宜活用し感染情報や開所情報等の発信に努めました。また、新1年生及び新規入会の保護者と児童に対しては個別面談を開催し、安心して利用できるように努めました。さらに、年度初めに開催される昭和村小学校学社連携担当者等合同会議に出席し、学校や教育委員会、放課後子ども教室の担当者との情報交換や連携を図りました。

③ 防災・防犯訓練の実施

主務支援員及び事務担当で2月に水害についての講座を受講し、3月に火災を想定した避難訓練を実施しました。

(2) 魅力ある学童にするための取り組み

① イベント・遊び・地域や世代間交流の実施による楽しい時間づくり

夏休み期間中のイベントとして、昭和の湯でのイベントを3学童クラブ合同で実施しました。また、各学童クラブにおいて毎月の誕生日会や、クリスマスイベントなどを行い、楽しみのある学童クラブを目指しました。



② 他学童クラブ等との情報共有

事務担当者及び主務支援員で構成をする支援員会議を毎月、主務者会議を毎週、全支援員が出席する全体会議を年2回開催しました。また、日々の各学童クラブにおけるミーティング等を通して学童間及び職員間の連絡・連携強化に努めました。

③ 安心・安全な生活の場の提供

日々のミーティング、支援員全体会議等を通じ適切な支援方法の習得に努め児童・家族が安心して利用できる環境整備をしました。

④ 児童・保護者へのアンケートの実施

実績無し

(3) 児童や家庭への分け隔てない支援の実施

① 支援員の資質向上と自主点検の実施

自主点検の実施、管理者、事務担当者及び全支援員が参加する全体会議において専門職を講師に招き、支援方法の見直しを図りました。

② 時代にマッチした適切な支援・保護者対応の習得

定期的に利根沼田指導員会議などに参加し適切な対応について学びました。また、全体会議において、保育マニュアルの見直しを行い時代に合った支援や対応について協議しました。

③ 特別な支援を要する児童への適切な対応を図るための専門職との連携

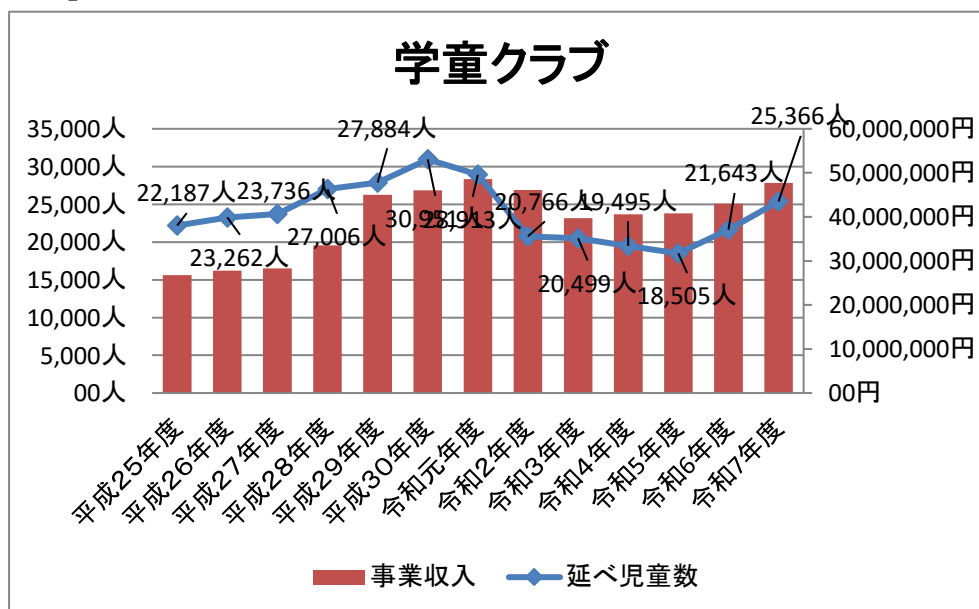
ぐんまこどもの国児童会館にて開催された、児童厚生員等研修会へ参加したり、全体会議において専門職より特別な支援を要する児童への適切な保育対応等を学びました。

学童クラブ

【利用者と事業収入の推移】 ※3学童合計値で指定管理料を含む

年 度	延べ児童数	事業収入
平成25年度	22,187人	26,745,300円
平成26年度	23,262人	27,761,900円
平成27年度	23,736人	28,307,700円
平成28年度	27,006人	33,530,800円
平成29年度	27,884人	44,997,000円
平成30年度	30,951人	46,031,400円
令和元年度	28,913人	48,566,400円
令和2年度	20,766人	46,091,000円
令和3年度	20,499人	39,684,600円
令和4年度	19,495人	40,618,200円
令和5年度	18,505人	40,822,800円
令和6年度	21,643人	42,946,600円
令和7年度	25,366人	47,688,200円

【推移グラフ】



8 福祉センター昭和の湯部門

基本目標

「利用者の意見や社会の変化に合わせて柔軟で迅速な対応を行い、皆に愛される施設を目指します。」

決算額

6,158万円

昭和の湯の運営

本会では、昭和村より昭和村総合福祉センター「昭和の湯」の指定管理者の指定を受け、管理運営を行っています。



■入館者数と事業収入の推移

年 度	延べ入館者数	事業収入
令和 元年度	96,666人	48,497,064円 (うち指定管理料 17,077,000円)
令和 2年度	69,643人	42,655,878円 (うち指定管理料 21,577,000円)
令和 3年度	80,517人	45,477,285円 (うち指定管理料 19,239,000円)
令和 4年度	81,171人	48,996,814円 (うち指定管理料 22,000,000円)
令和 5年度	74,044人	51,786,235円 (うち指定管理料 22,000,000円)
令和 6年度	73,559人	56,627,256円 (うち指定管理料 26,400,000円)
令和 7年度	73,699人	61,831,387円 (うち指定管理料 32,362,000円)

(1) 施設の維持管理及び運営に必要な財源の確保

①事業収入増と支出削減による経営改善

管理者及び関係職員による打ち合わせ会議を適宜開催し、事業収入増・支出削減について協議検討をし様々な取り組みを行い経営改善に努めました。

②燃料費及び水道光熱費の使用量増加の抑制

季節や営業時間等に応じた機械運転時間を心掛け灯油や電気の使用量の抑制に努めました。

③指定管理者として村との情報共有

事業収入増と支出削減による積極的な企業努力をもってしても解消することが出来ない赤字部分の補填について指定管理料として支援を受けました。

[村からの指定管理料]

令和3年度	19,239,000円
令和4年度	22,000,000円
令和5年度	22,000,000円
令和6年度	26,400,000円
令和7年度	32,362,000円

④社会情勢を鑑みた運営維持の為の柔軟な対応

物価高騰や燃料費、光熱費が高騰する中、支出削減や使用料抑制に努めました。

(2) サービス向上及び増収への積極的な取り組み

①関係職員等による打ち合わせ会議及びサービス向上に繋がる接遇の修得と実施
管理者及び関係職員による打ち合わせ会議を適宜開催し、年間行事の確認、イベントの企画及び内容検討、来館者アンケートの確認を行い必要な改善を図るとともに積極的にサービス向上への取り組みを行いました。

②状況に応じた各種イベントの実施

■主な取り組み内容

スタジオ・ガク、昭和村盆栽愛好会によるエントランスホールの飾り付け、村内保育園児の作品展示（年2回）、毎月26日に無料券配布など



③関係者及び関係機関との連携によるサービス向上の取り組み

④関係機関との連携及びSNSを活用した幅広いPR活動

関係機関との連携により利用者増、事業収入を確保できる様、ホームページに

てイベント予告や施設の状態等の発信を行いました。活動内容としては、「昭和村×片品村夏のおでかけスタンプラリー」「利根沼田みのりの里デジタルスタンプラリー」「群馬100名湯」などに協力しPR活動を実施しました。また、館内にアンケート回収箱を設置しお客様の声を反映できるよう努めました。

⑤施設内外の清潔保持と安全確保の徹底

日常的な清掃と休館日の設備メンテナンスや業者委託による定期的な館内清掃及び植木の剪定や除草作業、落ち葉の片付けなどを適宜行い施設内外の清潔の保持を徹底しました。

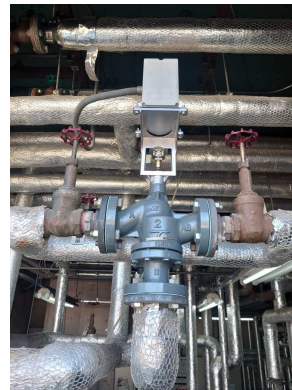
(3) 老朽化した修繕箇所への計画的かつ迅速な保守対応

①大規模な施設設備修繕の村への要望と迅速な対応

村への予算要望に合わせ施設設備の老朽化度合いの確認を行い、村の負担で適宜修繕を行いました。

■主な村負担の修繕

FRPタンク塗装修繕、井戸水循環ポンプ交換工事、洋風風呂三方弁交換工事など



■主な本会負担の修繕

ウォシュレット交換修理（女子トイレ・多目的トイレ・和風風呂トイレ）、和風サウナ室天井張替工事など

(4) 温泉でリフレッシュ事業の継続実施

①幅広いPR活動を通じた利用者の増加

概ね65歳以上の高齢者を対象に、昭和の湯までの無料送迎を行い、温泉利用と地域交流の支援をしました。

[延べ利用者数] 450人（前年度620人）

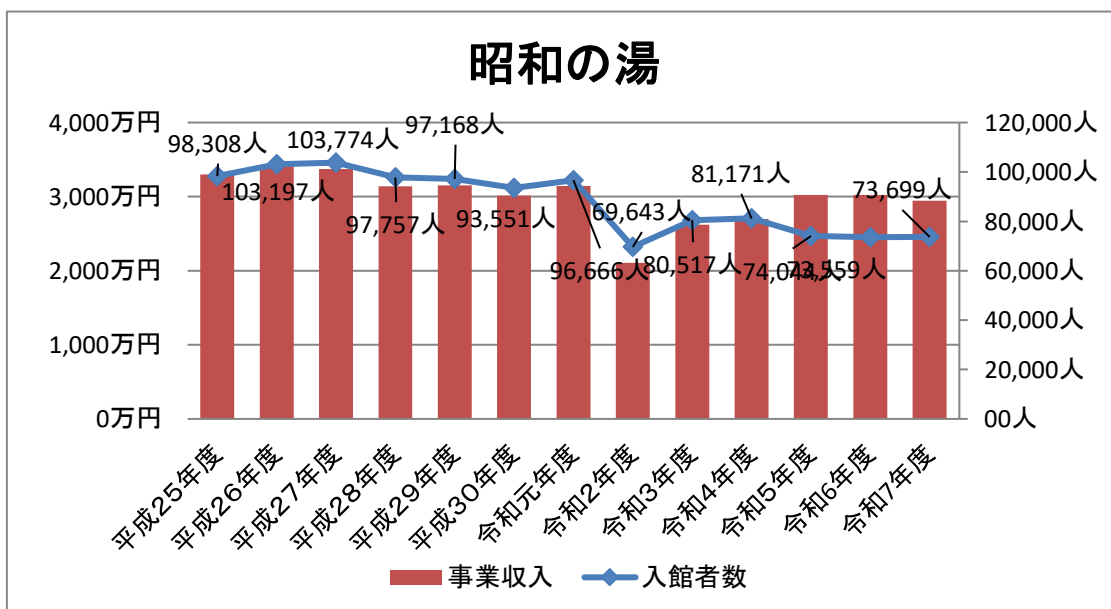


昭和の湯

【入館者数と事業収入の推移】

年 度	入館者数	事業収入
平成25年度	98,308人	3,298万円
平成26年度	103,197人	3,425万円
平成27年度	103,774人	3,374万円
平成28年度	97,757人	3,140万円
平成29年度	97,168人	3,153万円
平成30年度	93,551人	3,014万円
令和元年度	96,666人	3,142万円
令和2年度	69,643人	2,107万円
令和3年度	80,517人	2,623万円
令和4年度	81,171人	2,699万円
令和5年度	74,044人	3,022万円
令和6年度	73,559人	3,022万円
令和7年度	73,699人	2,947万円

【推移グラフ】



9 シルバー人材センター部門

基本目標

「高齢者に対し補助的短期的で安心して安全な就業機会を提供し、生きがいの充実及び社会参加等福祉の増進に努めます。」

決算額

2,743万円

シルバー人材センターの運営

■会員数	22名（3月末）
■作業受注件数	160件（前年度140件） （公共58件・企業51件・個人51件）
■就業延人員	3,573名
■契約金額	28,442,892円
配分金	21,437,704円
機械使用	1,889,600円
事務費	3,621,967円
その他	1,493,621円
■配分金支出	23,632,016円
配分金	21,581,586円
機械使用料	2,050,430円



（1）会員の加入促進

- ①広報紙等を活用した組織の紹介・啓発活動
社協だよりに掲載し啓発に努めました。
- ②会員の意欲ある活動を推進し、運営への参加を図るための加入促進
社協だよりやパンフレット等を活用し会員の新規加入促進に努めました。
[新規加入] 3名（女性0名）

（2）就業機会の確保と就業環境の調整と整備

- ①事業を円滑に推進するための村及び関係機関・団体との連絡調整
村や村内の企業等と連絡調整を行いました。
- ②安定した会員への仕事の紹介と年間を通じたバランスのある就業機会の創出
それぞれの会員に適した仕事の提供に努めました。
- ③フリーランス法に対応した就業条件の新たなシステム条件の構築
会員に「就業条件明示書」を交付しました。

(3) 会員の作業中の安全確保対策

- ①安全な就労確保のために各作業に必要な安全整備と講習会等への参加促進
センターで安全靴と笛、救急セットを整備し作業に係る安全対策を講じました。
- ②作業中の安全対策への指示・教育の徹底
現場責任者を中心に請負作業に応じた安全対策を講じ、事故の無い作業を徹底しました。

10 介護保険部門

基本目標

「法令を遵守しながら、要介護者・要支援者及びご家族の方々との信頼関係を大切にして利用者個々のニーズに適切に対応したサービス提供を目指します」

決算額

5,671万円

居宅介護支援事業（ケアマネジャー）

基本目標

「利用者及びご家族の要望を把握したうえで、専門職として個々のニーズに答えられ、残存機能の維持向上に繋がるプランの提案を目指します」

要介護者や家族の要望をもとに、在宅での介護を支援しています。

具体的には、次のような業務を行っています。

■ケアプランの作成

利用者及びご家族の要望やニーズに合わせたプランを作成します。

■サービス事業者との連絡調整

サービス事業者との連絡調整及びサービス利用状況の確認を行います。

■職員体制 専従職員 2人

■実績

対象者	延べ利用者数	事業収入
要介護者	801人 (890人)	9,446,110円 (10,512,510円)
認定調査	25人 (23人)	87,500円 (80,500円)
計	826人 (913人)	9,533,610円 (10,593,010円)

* () 内は前年度実績

(1) 利用者の心身の状況及び利用者・ご家族の生活状況に合わせたプランの提案

①偏りのないアセスメントとニーズの把握

職員間で適時情報・意見交換を行いながら、多様な視点から利用者の全体像を捉え、広い視野でニーズを把握できるよう努めました。

②課題を意識したモニタリングの継続

生活課題を意識して援助目標を設定し、利用者の生活状況や利用者及び家族の意向を確認しながらモニタリングを実施しました。

③家族の介護負担の軽減を図る支援

家族の持っている介護力を適切にアセスメントし必要に応じてサービスの内容と量の見直しやレスパイトケアを提案し、住み慣れた自宅での生活を継続していくための支援を行いました。

(2) 利用者のご家族が笑顔で安心して暮らせる支援体制の強化

①利用者及びご家族との信頼関係の構築

利用者及びご家族双方の状況を理解するように努力するとともに、思いに寄りそった丁寧な対応を心掛けることで信頼関係が築けるよう努めました。

②変化や異常に迅速に対応し重度化を防ぐ支援

サービス事業所等と利用者の状態の共有を強化し、利用者及びご家族の状況に合わせた訪問や観察を適切に行うことで、状態悪化を防止できるよう努めました。

(3) 経営基盤強化の為に事業収入の増額を目指した取り組み

①新規利用者の積極的かつ柔軟な受け入れ

新規利用者の依頼を積極的柔軟に受け入れ、適正にサービス提供につながるよう努めました。

②関係機関との信頼関係に基づく連携強化

日頃から関係機関との良好な関係づくりを意識しながら、情報の共有や相互理解など連携強化に努めました。

③制度の理解と法令を遵守した事業運営

制度の理解と法令を遵守する事で適正な事業運営を図りました。

④認定調査の受託

事業収入の増額を図るため積極的に認定調査を実施しました。

地域密着型通所介護事業 (デイサービス)

基本目標

「個別のかつ集団的な活動及び他者との交流を通して、楽しみをもって生活することで意欲的な生活につながるサービス提供を目指します」

昭和村の通所介護施設「昭和の里」において、送迎、通所により、機能訓練（リハビリ）や健康チェック、レクリエーション、入浴、食事介助などの介護サービスを行い1日

を過ごしていただきます。また、外出行事や食レク・創作活動も実施しました。

- 営業日 月曜日～土曜日*年末年始を除く
- サービス提供時間 9時00分～17時00分
- 利用定員 18名
- 利用料は、介護保険法による利用者に応じた負担です。
- 食費（昼食・おやつ）は、1食600円です。
食費（夕食）は、1食600円です。
- 職員体制

- ①生活相談員 3人（兼務有り）
- ②看護職員 2人（兼務有り）
- ③介護職員 7人（兼務有り）
- ④機能訓練指導員 2人（兼務有り）
- ⑤調理職員 3人（兼務有り）



■実績

対象者	実利用者	延べ利用者	事業収入
要介護者	371人 (370人)	3,419人 (3,156人)	32,972,640円 (30,293,997円)
要支援者等	201人 (172人)	1,304人 (1,095人)	7,736,240円 (6,582,263円)
計	572人 (542人)	4,723人 (4,251人)	40,708,880円 (36,876,260円)

年間営業日数	一日平均利用者数
307日 (282日)	15.4人 (15.1人)

*（ ）内は前年度実績

（1）利用者ニーズに合った柔軟な受入体制及びプログラムの整備

- ①利用者及びご家族との信頼関係の構築及び安心して利用出来る環境の整備
利用者やご家族の思いや意向に寄り添った対応を心がけ、信頼関係の構築に務めるとともに、サービスに幅を持たせることで、利用者ご家族が安心して利用出来る施設づくりに努めました。また、ご家族との適切な情報共有、安全に活動できる環境作り等に留意し、安全に活動できる環境作りに取り組みました。
- ②楽しみを持ち、意欲的な生活につながるサービスの提供
利用者のニーズに合わせたサービス提供を行うとともに、外出事業や食レク等

生活の中で楽しみを提供しました。また、自立した部分を活用し意欲向上や活動性を高めることのできるプログラムの提供に努めました。

(2) サービスの質と職員資質の向上、職場環境の整備

- ①職員個々の介護・相談援助技術の向上
積極的に研修に参加し、研修内容を共有することで、職員個々の介護・相談援助技術の向上を図りました。また、職員相互で情報や技術の共有を図ることで資質向上に努めました。
- ②職員間での情報共有及び連携強化と働きやすい環境づくり
日々のミーティング等の中で、利用者の状態や提供したサービス等について情報共有や意見交換を行い、連携を強化し同じ視点でサービス提供ができるよう努めました。
- ③福祉サービス第三者評価の結果に基づくサービス向上の為の改善
福祉サービス第三者評価の結果を職員間で共有し、ミーティング等でサービスについて検討しました。

(3) 地域との連携強化及び地域のニーズに合わせたサービス提供

- ①運営推進会議の開催など地域住民との連携
地域との連携を強化し、地域の実情に即したサービスを提供することを目的に運営推進会議を開催するとともに、外出行事や小中学校の福祉教育等の受け入れなど、地域との交流する機会の提供に取り組みました。
運営推進会議開催数 2回

(4) 経営基盤強化の為に事業収入増額を目指した取り組み

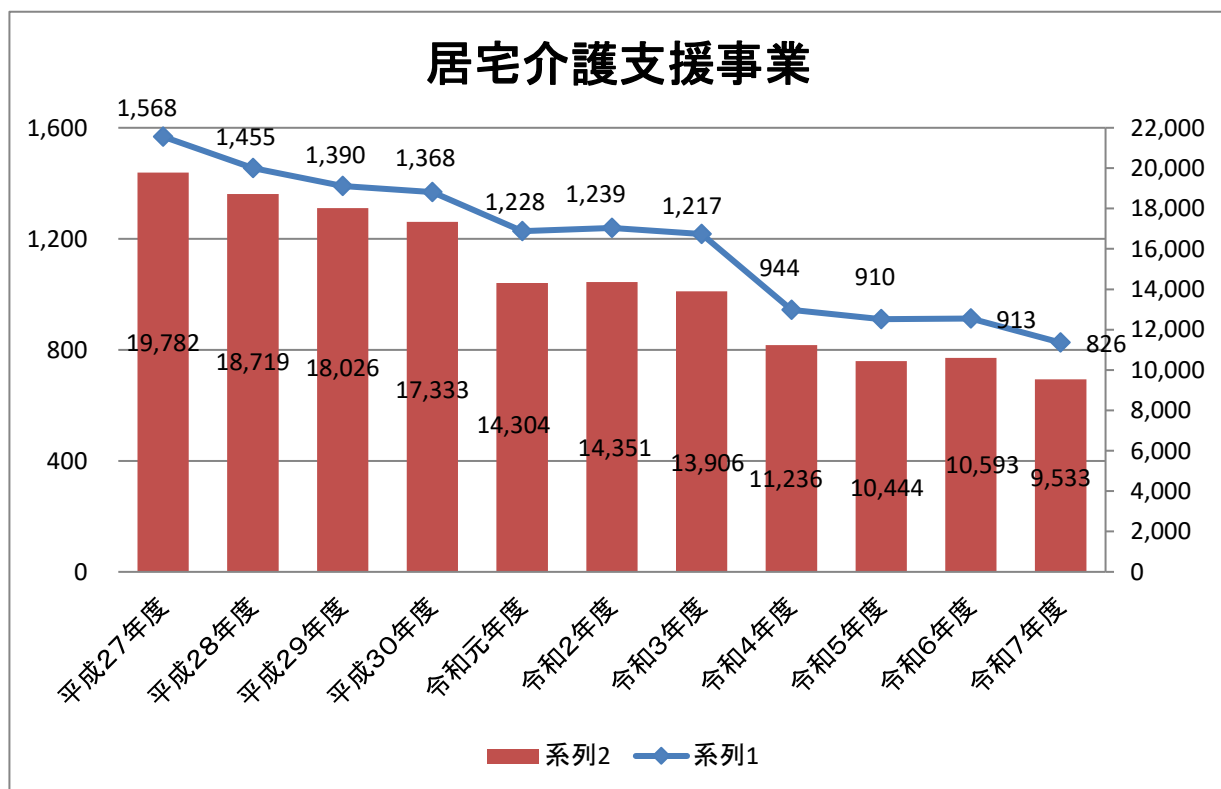
- ①事業所情報や取り組み等の発信及び関係機関との連携強化
法人ホームページでの活動紹介の実施。定期的にデイサービス新聞を発行し、居宅介護支援事業へ施設事業内容等の発信をしました。併せて利用者情報の共有などを密に行い、関係機関との連携強化に努めました。
- ②制度の理解と法令を遵守した事業運営
必要な加算要件の確認など、法令を遵守した事業運営に努めました。

居宅介護支援事業

【利用者と事業収入の推移】

年 度	延べ利用者数	事業収入
平成27年度	1,568人	19,782,040円
平成28年度	1,455人	18,719,110円
平成29年度	1,390人	18,026,090円
平成30年度	1,368人	17,333,660円
令和元年度	1,228人	14,304,990円
令和2年度	1,239人	14,351,540円
令和3年度	1,217人	13,906,590円
令和4年度	944人	11,236,530円
令和5年度	910人	10,444,320円
令和6年度	913人	10,593,010円
令和7年度	826人	9,533,610円

【推移グラフ】

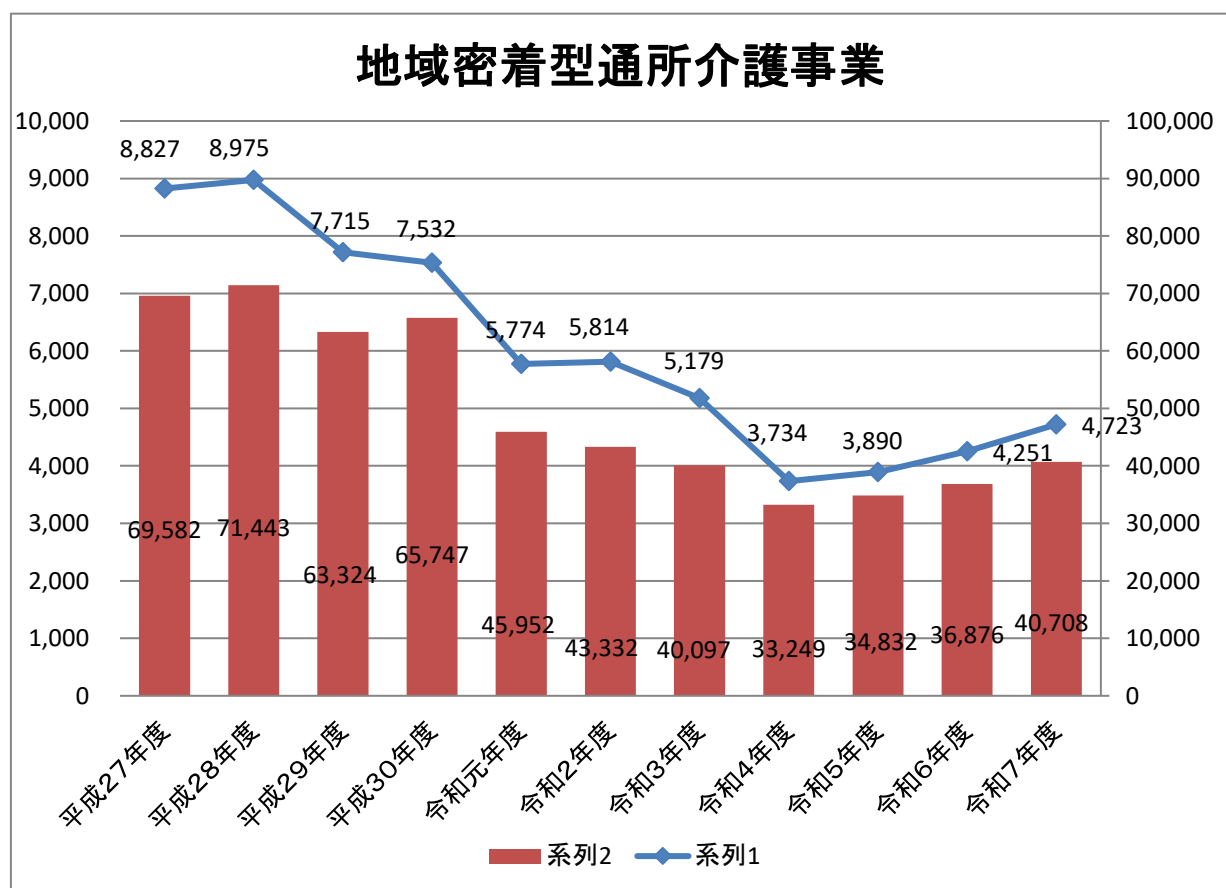


地域密着型通所介護事業

【利用者数と事業収入の推移】

年 度	延べ利用者数	事業収入
平成27年度	8,827人	69,582,002円
平成28年度	8,975人	71,443,287円
平成29年度	7,715人	63,324,211円
平成30年度	7,532人	65,747,106円
令和元年度	5,774人	45,952,400円
令和2年度	5,814人	43,332,267円
令和3年度	5,179人	40,097,069円
令和4年度	3,734人	33,249,888円
令和5年度	3,890人	34,832,440円
令和6年度	4,251人	36,876,260円
令和7年度	4,723人	40,708,880円

【推移グラフ】





社会福祉法人
昭和村社会福祉協議会